

23/3/24 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第 55 回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

14:00

鈴木整備室長：はじめる
マスクは各自判断

折戸局長：こんにちは
今年度最後の全体会議
今年度 7 回行った 有益な意見
名古屋城の整備は多岐にわたる
基本計画、表二の門、西之丸
ご審議をお願い

鈴木：出席者紹介
高瀬、麓は欠席
文化庁、愛知県
教育委員会、名古屋城
松雄副市長も出席
撮影・録音はここまで
資料確認
机上配布も

赤羽：配布資料と、自宅に事前に送ってきたものは同じか

名古屋城：一部修正した
8-5 基礎構造の検討例を文言追加

鈴木：資料 2 以降についても若干説明

赤羽：検討内容 自宅に送られてきたが、
石垣部会 1 の整備計画 時間がなくできなかった
石垣部会で扱ったが、2 時間ではたりない
議事は廃案 4 月以降あらためて提案 それでよいか

名古屋城：17 日石垣部会 石垣保存方針の概要版の改定
令和 4 年調査実績書き加えた→取り下げる

今日出した資料1 2章石垣等遺構の保存
1年前の概要版からの引用

赤羽：2章については昨年オーソライズされたてよいか

名古屋城：文化庁からの指摘事項で出した
2章について引用した
昨年12月全体整備検討会議に出した
穴蔵石垣調査 後日書き加えて出したい
3/17 議論できなかつたので、昨年12月資料で綴じている

赤羽：テレビを見たら、天守閣部会の様子
市長「わしはきいていない バリアフリー スロープを設ける
地上-小天守-大天守 鉄骨
市のトップの方の考えと違うことが載っているのはあり得るのか

上田：天守閣部会 報道 お話をした
スロープの件 直接話をした
しっかりと図面を示して事前に話した ご了解をいただいた
天守閣部会で話した
公務が激務 質問された際、失念した？
「ああ、聞いていたな」

赤羽：テレビでも聞こえてこなかった

上田：市長の発言コメントは機会がなかった
近々にその旨話があると理解している

赤羽：木造天守推進の市長が「これは違う」 違和感を覚えた
勘違い 段階で説明ができるのか
文化庁に出す
差し替え戦術をとるのか
4月以降2章石垣部会で討議するのか

上田：名古屋城木造天守 多岐にわたる課題
委員にご指導いただき手探りで進めてきた
進めていきながら、1歩進み2歩さがる

やり直しが発生してきた
市長発言もあるが、複雑な課題扱っている
全方向 前進をかけるのが難しい
2章 少しでも具体的成果を盛り込みたかった
不十分のまま石垣部会、天守閣部会も含めて議論ができなかった
石垣部会で頂戴した意見を踏まえ、4月再度お諮りしたい
今後 差し替えを前提とした計画作成ではなく、
しっかりしたものを作りたい
調査、指導 その時点の議論を修正・加筆必要がでる
以前に出したものを修正
違う形 場合によっては出てくる
委員の人にご指導

鈴木：議事に移りたい
座長に任せたい

14：18

瀬口：事務局説明を
木造天守整備基本計画について

荒川：資料1説明

昨年12月中間報告 8章の内7章まで説明した
天守閣部会で議論した 8章取りまとめ
復元計画、図
冒頭に指摘があったが、2章遺構保存 穴蔵石垣など
さらに充実したい 今日の議論
ひととおり議論 検討結果取りまとめになると考える
1-10 鳥観図 枅形は消防車が入らないので平面表示
8-2 復元原案
観覧者の安全対策
8-3 緑青
8-5 基礎構造の考え方
8-6 検討例
8-7 穴蔵石垣背面 土砂が大量
8-8 日本建築センター及び消防設備安全センターの評定書を得ている
8-32 スロープ 鉄骨造のスロープ
景観の工夫をする

外部 1/15 内部 1/12 を超える部分もあるが、運営面で工夫
8-34 昇降技術 垂直昇降技術
市民意見をうかがって計画を作る
地階-1階 主架構を変更しなくても設置可能
8-35 その他段差解消
8-38 運営体制
8-39 維持管理
8-40 修繕サイクル
8-41 公開活用
8-42 さらに理解を促進する
8-43-44 みどころ
8-45 施工時の公開
基礎構造の方針でも説明したが、解体後の調査
石垣への興味喚起を図る
建築基準法の適用除外を受ける予定だが、代替措置を備える

14:45

瀬口：ありがとう 意見は

小濱：構造が専門

- 1) 8-5 建築基準法より甘いのではないか
中規模外力 現行の設計 外力がなくなれば戻る
弾性状態 最大層間変形角 木造 1/120 以下にしない
ここでは 1/60 土壁、筋交い 最大耐力 元に戻らない
現行基準 こういった亀裂を生じないを目標
それを目標としてほしい
どうして 1/60 に緩和したのか
- 2) 基礎構造の検討 8-6 調査しないとわからない
現行のSRC 木造 跳ね出し部分をどう支持するか 重大な問題
現在のSRCは吊り構造 木造は下から支える
かなり重量があるので、きちっと考えて
木造だけではとてもできない 鋼材を入れることが必要だと思う
木造天守復元 どう満足するのか
1つの提案 鋼材を真ん中 回りを木造 ハイブリッドな部材
地下1階部分を鉄骨にしてはどうか
木材を表面で包むと1時間耐火
比較的容易になるのでは 提案

検討しているのか

竹中？：目標性能

文化庁「耐震診断指針」 1/60

基本計画 この値を設定したい

復元原案 予備解析

詳細な解析は基礎構造が決まってから

設定した1/60だけで満足せず、さらに被害を減らすよう努力したい

名古屋城：2日前天守閣部会 同じ資料を提示した

今回提示した例はあくまで『例』

調査は現天守がある状態 局所的にしかできていない

現天守解体後に遺構の残存状況を把握してから

もう少しわかるように

訂正部分はどこ？ 赤羽先生から指摘

例A B C 解体後状況把握して

鉄骨使うとしても、被覆して景観上配慮したもの

検討段階 有識者先生と相談したい

小濱：1/60 文化財の何とかと言った

1) 本丸御殿も同じよう 天守との違い

本丸御殿は平屋 古壁式 損傷が出にくい

建物の特徴がある

天守 外壁は漆喰塗

開口部も小さい 1/60 変形角 じっくり壁の亀裂が出る

補修

平屋なら補修簡単

天守閣 足場を組まない

損傷が出ないように考えるべき

現行の耐震 建築基準法の基準 1/120 以下に収めてほしい

それを目標に

2) 木材と鋼材のハイブリッド 考える

すでに実例もある

耐火もある

瀬口：ほかには よいか

藤井：基本計画の性格 動くような側面？理解できていない
以前に指摘された 図面 1-71
4階の出っ張り かぎ型4かしよ
金城温故録の図面と異なっている
実測図の信頼性 もう少し検討してもらえないか
金城温故録をこれまで頼ってきている
復元されていない
野帳が残っているかわからないが
もしそうなら説明を

名古屋城：4階 北と南で相違がある
6-5 古絵図 文献資料 近代実測図
東向きL 西向きL
近代実測図 名古屋離宮図
東向きL 西向きL
大正8年実測図
東向きL 東向きL
昭和実測図
東向きL 東向きL
大正8年、昭和実測図が正しいと判断

藤井：根拠にならない
なぜこの実測図が正しいのか 納得できにくい
専門家ではないが気になる

名古屋城：こういった見解を持っているが、研究する
北側は写真がある
南側は写真がない

瀬口：引き続き検討

小濱：もう1つ
バリアフリー
8-34 地階-1階
1階-2階は使えないのか

名古屋城：公募終わって最優秀賞決めた

ここに書いたのは公募の最低水準
今後市民意見をうかがってどうするかきめる
開発の面もあり決める
ご理解を

小濱：ほかの階も設置可能性？

名古屋城：可能性は否定できないが、現時点では

小濱：ぜひ便利に

瀬口：とくになければ、今後検討いくつかあるが、
渋谷調査官のコメントを

渋谷：文化庁の渋谷

これまでの資料を用いて復元原案を作った
いくつか保留事項はある
ふまえて建てるための様々な計画を用いながら
第8章復元計画と活用をつくってありがとう
議論の中 構造計画の中で、天守台石垣にどう構造がかかるのか
まだ今後の調査によるところがある
最大層間変形角の指摘も踏まえながら、実際に進めるにあたって
一つの取りまとめができたのではないかと拝見させていただいた
今後基本計画 さらに精査すべき点、ご指摘点
石垣遺構の保存について補充
ブラッシュアップ 最終的な完成に向けて進めていただけたら

瀬口：ほぼ5年間 基本計画 名古屋市案として提出していただいた
いろんな提案いただいた
文化庁からも、すすめるにあたっての取りまとめをいただいたと
今後検討すべき 案に残っている
今日の意見にもある
名古屋市として、まとめたうえで文化庁復元検討委員会の開始に向け
再度詰めていって
ありがとう
松雄副市長にひとこと

松雄：瀬口座長からお許し お礼
忙しい中会議 文化庁からも
整備基本計画 石垣等遺構保存は残るものの、
一応のとりまとめができたことありがとう
平成27年9月 補正予算
7年6か月
私たち 理解が足りなかった 苦しい日々が続いた
文化庁からたびたび進め方 助け舟
有識者 ご指導ご助言
技術、他城郭
あと1歩 こぎつけた 感謝
竹中も
残された課題 丁寧な議論を重ね、充実したものにしたい
文化庁と協議 あらためて全体に報告
議会、市民、経済界の理解
できる限り名古屋市民の総意で
国に出す以上、考えられる最大最高のものを提出したい
引き続きご指導を
長い間ありがとう

鈴木：松雄副市長、局長は所用により退席する
1時間15分 10分間休憩
15：25まで
15：15

15：25
瀬口：再開する
表二の門雁木

大村：調査研究センター
2/3 全体に出した
石垣で意見が出た その後変更した
当初の根石？
5ページ、6頁

15：30
瀬口：ご意見ご質問は

よいか

丸山：わかれば教えて

大正４年なぜ雁木がなくなったのか
転用されたのか？

大村：絵図の検討を昨年から行っている

雁木当初からあったもの→本丸周辺 大正４年から絵図からなくなる
一斉になくなった

理由 城内歩いていると、縁石に用いられている
転用された可能性

丸山：二之丸庭園も石が抜けている

名古屋城内の石材の動き

ほかのところにも転用、売却した？

推測の域に過ぎない

瀬口：特になければ来年度調査

盛り土撤去 現状変更はどういうスケジュール？

大村：今後文化庁に現状変更許可

許可が下りしだい工事したい

瀬口：中身は

大村：図 17 ままの範囲

表 2 面積のまま

村木：補足 調査内容

雁木が復元できるか調査

江戸時代の途中で変更されたもの

雁木の変遷を探る

瀬口：黒枠 72平方メートル

現状変更許可申請してよいか 了解を得た
議事 3

草野：保存整備室

前回全体 大きく 2 点

課題 六番御蔵

既存樹木

名古屋城：六番御蔵の構造

資料 3 1 頁

地下部分の遺構検出

建物上部 直接わからない

他の米蔵 遺構の再検討

幕府や藩が管理する米蔵 現存、構造記録が残っている、発掘調査遺構

資料 3 の 1 頁

土蔵 板敷が多い

礎石や地覆石の下に布掘りをするところも

大壁 地盤強化の目的も

地覆石の存在の可能性 → 発掘調査 一部にしか確認できなかった

母屋の構造 1 つに決めるのは難しい

表示しない

名古屋城：既存樹木の取り扱い

資料 3 令和元年度工事一時中止

かや

毀損事故が発生して一時中止した

かやは戦火をのがれた

遺構表示 木が必要か

樹木があることが名古屋城の歴史

土被り 30 センチくらい 中低木は撤去・移植

梅は撤去

名古屋城：10 頁

参照する絵図は正しいのか

名古屋城：全体整備案を示す

14 頁

1 週間前に先生方に送った資料と一部訂正

16:03

瀬口：ご意見ご質問は

丸山：御蔵の高さ 覆土 30 センチ 同じ高さになるのか
外観からすると凸凹すると変

名古屋城：13 頁 全体平面図 最終的な高さ
全体に 30 センチあげる 一体として
急こう配にならないように

丸山：御蔵自体は沿道より高くなるのか

名古屋城：園路、遺構表示も含めて 30 センチあがる

丸山：しきりと蔵が高くなる？

名古屋城：基本的にその考え

丸山：園路は園路の高さ
現状 1 番御蔵 発掘されて少し高いような気が
景観的には土盛りされたところがあった方が
御蔵跡らしい
高木 特別緑地地区 残す方向はよい
30 センチ土盛りすると、低中木 樹木にとってはかなりストレス
呼吸ができず木が枯れる可能性
園路の高さと同じにするのは変な感じ

瀬口：ほかには ありませんか
離宮期の写真を映して
三種の神器 運んだ道は必ずしも斜めではなく横をつかった
実は今度の整備 それがない 木を切っている
大切にするとってもない
ヒノキの部分 金城温故録にない樹種
言っていることと違う
南北は五六本切っている 残っているのは七八本
樹齢はどれくらい

名古屋城：確認できる資料がない

瀬口：大正期の庭園だからそのころだろう
太い木を切って、何年かわからない
ヒノキ 列植？自生？
調べてから残る残さない話して
何のため？江戸後期の状態に戻す
戻せているのか
次回パースを示して
高さの違い フラット 盛ったところもある
平面にかえた感じ
10センチくらいがいいかも
パースを示してほしい

名古屋城：指摘の点承った
斜めより断面で説明したほうがいいのかも

瀬口：複数あるといい
観覧者がきたときに、「江戸時代の蔵跡があったところ」
どうみえるか
平面図 専門家しかわからない 誤解を招く
予算があればCG 動画
公共設備 動画で市民に説明している

名古屋城：かしこまった

丸山：離宮期の鳥観図
正門から斜め 樹林が残っている
離宮のあたり
1番御蔵 常緑樹が残っている すぎとヒノキ
西之丸 結構大きな緑の塊があったのでは
大きな木を残していくのは意義がある
もみのきはどれ？
離宮期の樹木 みなが大正期の樹木がでていて
樹木を残す手法は慎重に

瀬口：樹木を残すのは反対しているわけではない
場所による

ここは全部ない
かわりに梅がうわっている
今回梅は残す
△2つは全滅
下もない
近世の通路
京都に行く ご大礼のときの車
曲がる？まっすぐ？
もともとは江戸後期の姿 蔵跡を整備する
目的が変わってはいけない
意見2つ
2つをパースに書いて見せて
・木がない
・木がある

名古屋城：かしこまった 準備する

16：18

瀬口：議事終わり 事務局に戻す

鈴木：報告したい

本丸搦め手馬出調査

西本：調査研究センター

本丸搦め手馬出周辺石垣の修復

境門跡

石積みと地下遺構の関係

図6

16：27

鈴木：急いで報告した

不明な点があれば

積みなおし後の修景に役立てたい

2つめ報告 不明門北土橋石垣根石発掘調査成果

宮地：調査研究センター

明治期濃尾地震後崩落→積みなおし

根石部分 情報が十分得られていなかった
図4のとおり
赤い点線の下が近世石垣と盛り土と推定

鈴木：ご質問、ご不明な点は
よいか
3つめ 天守台穴蔵石垣背面調査成果

山本：保存整備室

粒形

背面の残存状況、安定性調査

発生土と思われる石交じり土 石垣部会 11月、12月に報告

「背面は栗層として適切ではない」

現状の栗石状況 数値的に把握が必要

通常栗石 土をのぞいて密度試験

→実態が正しく反映されない可能性

粒形の大きさを調査した

A 土砂が多い

B 中間

C 石が多い

2 ページ目

隅角部 石垣積みなおし工事

劣化した穴蔵石垣 昭和27-31年 5回にわたって行った

たたき面 下部

昭和32年 ③C 現天守再建時の影響をほぼ受けていないと推測

石垣整備事業 天守焼失前に戻そうとしたのでは

150mm以上を栗石の目安とする

③AB ほとんどない

②B 38.8%

今後どう評価するか 有識者と相談したい

16:41

鈴木：質問は

3つ報告した

その他 テレビ新聞 報道された 情報提供を

3/16 来年度予算案可決成立

新聞に掲載 本日議題以外の主なもの 二の丸 水堀舟運

全体 渋谷調査官コメントは

渋谷：議事と報告 非常に多くの事業展開

今回議題1 令和4年度事業予定表

全体で名古屋城 どういう整備をするかよくわかる

1つ1つ 報告 どの場所で何のため 議題地図は有効だと思う

今年度はこれで終了

次年度以降 全体どう進んでいるのか

報告や議事聞けばわかるが、可視化していただければなおよい

令和4年度事業予定 令和5年度はこう

中長期的 予測難しいが、こういうものを目指したい

今こういう調査している 見通せるような図を示してもらえれば

多くの部分で調査研究 基づく整備が進んでいる

引き続き事務局の調査整備 有識者指導引き続きよろしく ありがとう

鈴木：皆見補佐は

皆見：拝聴した

今後も検討委員会を核として、適切な整備がはかれるように

ありがとう

鈴木：予定は以上

時間超過申し訳ない

今年度 すべての日程を終えた

先生ご助言ありがとう

終了

16:46